



## 目次

◆ブロックからのお知らせ..... 1	くになります..... 4
■2025年度日本野鳥の会中国四国ブロック交流会報告..... 1	■会員数..... 4
◆事務局からのお知らせなど..... 4	■令和7年度第2回評議員会（臨時）議事録..... 6
■2026年4月から旧版※の入会申込書が使えな	

## ◆ブロックからのお知らせ

### ■2025年度日本野鳥の会中国四国ブロック交流会 報告

- 日 時：2025年11月1日（土）～11月2日（日）
- 場 所：ロイヤルガーデンホテル（徳島県阿南市）
- 参加団体：鳥取県支部（5名）、島根県支部（4名）、岡山県支部（3名）、広島県支部（8名）、山口県支部（2名）、香川県支部（3名）、愛媛（4名）、高知支部（5名）、徳島県支部（22名）、財団（（野副理事長、箱田普及室長代理、井上普及室員）（合計59名）
- 担当支部：日本野鳥の会徳島県支部
- スケジュール
  - ・1日目：13：00～17：00 総会（終了後、懇親会）
  - ・2日目：08：30～12：00 現地観察会（蒲生田岬、または出島野鳥園）

### ●議事

#### 1) 財団からの報告

今年度の「ツバメの見守り感謝状贈呈事業」の報告と「クリーンアップ探鳥会の開催」の呼びかけについて配布資料を基に説明があった。次に、探鳥会リーダー育成ワーキンググループの報告とワーキンググループが作成しているテキストの概要について報告があった。

#### 2) 各支部からの協議

##### 【島根県支部】

##### (1) 役員等への報酬について

島根県支部は、役員も完全なボランティアで活動を行っているが、労力が大きい業務については報酬を支払うことを検討している。そこで、各支部ではどのような対応があるか情報を知りたい、また注意点があれば共有して欲しいと呼びかけが

あった。

##### <各支部からの意見>

- ◎鳥取県支部：報酬という位置づけではなく、実費相当額を支給している。支部長、事務局長は12000円/年、副支部長3名、HP担当、調査集計担当は6000円/年。探鳥会リーダーへの報酬はなし。ただし、下見に対しては交通費の実費相当額を支給
- ◎徳島県支部：編集作業および探鳥会担当は無償
- ◎高知支部：探鳥会担当者に交通費を実費で支給
- ◎香川県支部：支部長、事務局長、会計、編集、販売担当に月2,000円、探鳥会リーダーには探鳥会報告の手間賃、交通費として月1,000円を支給。調査等にも報酬あり

##### (2) 図鑑等の刊行による収益対応について

支部での図鑑の刊行について、今までは会員のみが無償配布をしていたが、将来的には外販をしたいと考えている。外販にあたり、税務署に相談したところ、収益事業開始届を提出すること、収支を記録して税金の申告をすること、消費税が課税される規模の場合は消費税も考慮すること、などの注意点が挙げられた。外販を行っている支部があれば、販売方法や税務手続き等に関する情報提供をお願いしたいと呼びかけがあった。

##### 【広島県支部】

##### (1) 各支部で出版、または出版予定の鳥類目録・鳥類図鑑について

広島県支部では、2002年に中国新聞社から広島野鳥図鑑を出版し、その後、2023年にも広島県鳥類目録を発行し、支部会員に無料配布を行った。この目録には写真がなく文字情報のみだったため、写真を追加し、広島県支部50周年記念誌として2030年に新しい目録を刊行する計画である。そこ

で、販売方法や内容を検討したく、各支部で出版した、または出版予定があれば共有して欲しいと呼びかけがあった。

#### <各支部からの意見>

◎山口県支部：三重がシギチの図鑑を Amazon で販売しているので、販売方法を参考にしているかどうか。各支部の出版方法を財団で調査することはできないか？

◎財団：確認して後日お知らせする

◎岡山県支部：来春ごろ図鑑を出版予定。印刷部数は 1,500 部、販売価格は 1 部 2,000 円を予定

#### 【岡山県支部】

(1) 中四国ブロック間での支部報の郵送について  
中四国ブロック間では、各支部が発行する支部報を郵送で交換しているが、在庫が増えている状況である。現在、財団から全国の支部報が PDF で送付されているため、PDF 版を発行している支部については、紙面の郵送を廃止してもよいのではないか提案された。

#### <各支部の意見>

◎鳥取県支部、香川県支部、広島県支部：引き続き紙面での郵送を希望

◎鳥根県支部、岡山県支部、山口県支部、愛媛、高知支部、徳島県支部：紙面での郵送は廃止

#### 3) 各支部からの報告

##### ①鳥取県支部（津森氏）

\*昨年度の探鳥会は、東部・中部・西部で毎月 1 回ずつ実施した。事前申込は不要。

\*ツバメ子育て応援事業に 2021 年から参加。今年は浜村温泉「魚と屋」に感謝状を贈呈した。マスコミに取り上げてもらうことで、野鳥の会の知名度を上げたい。ツバメのねぐら入り観察会も西部と中部で実施。

\*目の見えない方、見えにくい方を対象に、バリアフリー探鳥会（バードリスニング）を実施した。2025 年度は、西部 1 回・中部 1 回・岡山県で 1 回の計 3 回実施することができた。

\*保護活動では、ブッポウソウの巣箱を保護事業県内 65 か所に設置し、52 か所の利用が確認された。2025 年に巣箱から巣立った若鳥は推定 166 羽である。コアジサシの保護では、天神川の中州でデコイを設置、また、湯梨浜学園の生徒へ授業を行った。

\*調査（委託）事業では、ガンカモ調査、カワウ調査などを実施した。

\*環境教育では、米子水鳥公園と任意団体で、自然科学分野の小学生の自由研究の発表会である「こども自由研究発表会」を開催した。ほかにも、西部地区野鳥巣箱コンクールで審査員を担当し、大山オオタカの森で、巣箱の設置会・観察会を実施した。大山オオタカの森は昨年自然共生サイトに登録された。

\*探鳥会リーダーズフォーラムに参加した。

##### ②鳥根県支部（川上氏）

\*探鳥会は年間 39 回の開催を予定している。そのうち、14 回は初心者探鳥会として実施する見込み。初心者探鳥会を行う出雲大社、松江城山はアクセスもよく参加者が多い。

\*裾野を広げる目的もあり、新しい探鳥地を開拓して、マンネリ化打開を模索している。新しい探鳥地を設定することで、新規リーダーの増加も図りたい。

\*会員数は、2023 年をピークに減少傾向である。

\*鳥のチェックリストを掲載した探鳥会用パンフレットを作成した。使用は B5 サイズ 3 つ折り。ホームページからダウンロードが可能。鳥合わせ時に参加者に見られた鳥を読み上げてもらうことで、一体感が生まれるよう工夫している。

##### ③岡山県支部（丸山氏）

\*会員の状況は、現在、正会員 400 名、家族会員含めて 510 名であり、減少傾向にある。

\*ブッポウソウ保護では、支部で 220 個の巣箱を管理しており、利用率は 80% である。10 月にすべての掃除を実施した。支部とは別に、ブッポウソウ吉備中央町会も約 200 個の巣箱を設置している。

\*鏡野町の大規模風力発電事業への対応では、ENEOS が計画していた 25 基の大規模風力発電事業に対し、クマタカ、イヌワシの生息、土砂崩れの恐れなどを理由に、地元の方と反対活動を行った。その結果、岡山県が制定した「土盛り規制法の規制区域」に指定され、風車数の大幅削減を余儀なくされ、事業者撤退が決定した。

\*津山市五輪原の大規模風力発電事業への対応について、すでに風車建設工事が着工しているが、イヌワシの餌場になっているため、事業者と協議を進めている。

\*カワウ調査では、駆除により個体数が減少している。半減にする計画であるが達成はできていない。

##### ④広島県支部（茶村氏）

\*ツバメの子育て応援事業に参加し、医療法人ピーアイエー ナカムラ病院に感謝状を贈呈した。

\*調査保護グループを立ち上げ、コアジサシ、タマシギ、ヤマセミを重点的に調査し、生息状況の把握に努めた。また、広島県レッドデータブックの作成に支部として参加した。そのほか、風力発電事業の現状把握や必要に応じて意見書の提出も行った。

\*野鳥情報カードの提出を呼びかけ、報告者 83 名、285 件の情報が寄せられた。

\*野鳥図書館の運営を行った。毎週土日に会員スタッフが 14 時～17 時まで常駐している。

\*各地公民館で年間 6 回ほど野鳥展を開催した。入会案内や「おさんぽ鳥図鑑」のプレゼントハガキを配布した。

\*学校や公民館から講師の依頼を受け、2024 年は 12 回対応を行った。

\*探鳥会は年間 51 回実施。機関紙「森の新聞」は隔月で発行した。

\*ガンカモ調査、シギチ調査、カワウ調査を実施し

た。ガンカモ調査では、200 か所以上で調査を実施。カワウ調査では、船をチャーターして島嶼部の調査も行った。

\* 会員数は徐々に減少しており、新規入会者を増やしたい。

#### ⑤山口県支部（白石氏）

\* 会員数は高齢化等により減少している。以前は自然退会が多かったが、最近は死後退会も増えている印象。

\* ツバメの子育て応援事業に初参加。これまで推薦したいと思っていたところがあったが断られていた。今回は、ローカルニュースなどで話題になったタクシー会社に感謝状を贈呈した。

\* 山口湾のラムサール登録に向けて活動している。登録の条件は整っているが、市の理解を得ることが難しく、止まっている状況。今後も説明を続けていく。

\* 支部創立 60 年記念誌を年度内に発刊予定。

#### ⑥香川県支部（川南氏）

\* 会員数は 200 人前後で推移しており、横ばい、微減傾向である。入会案内を作成し、初めて来た人には配布している。

\* 役員を務める人材不足が課題である。

\* シギチ、ガンカモ、鳥獣保護区、タカの渡り、コアジサシ、ブッポウソウなどの調査を実施した。

\* 新川河口でツバメのねぐら入りを実施した。県の担当者から治水対策の河川改修工事実施の相談があり、野鳥の会としては、ツバメのねぐらに影響がないように最小限にとどめて欲しいと要望を出した。

#### ⑦愛媛（松田氏）

\* ツル、コウノトリの保護では、西予市などで調査活動を実施した。また、近隣の小学校と一緒にピオトープの生きもの観察会や、デコイの設置、田んぼの落ち穂拾い体験などを行った。

\* ブッポウソウ保護では、近隣の小学校と協力して巣箱を作成し、観察会を実施した。

\* コアジサシ保護では、松山衛生 eco センター（污水处理場）で子育て応援プロジェクトを実施。敷地内の草刈りやデコイの設置などを行った。デコイは助成金を利用して約 180 個を準備、デコイの色塗りイベントも行った。

\* 「愛媛県鳥類目録」を発行し、会員に頒布した。

\* 高校生役員がおり、鳥学会で発表を行った。

\* ツバメの子育て応援に参加し、今年度は 1 団体に感謝状を贈呈した。

\* 四国圏域生態系ネットワーク推進協議会に参加した。

#### ⑧高知支部（西村氏）

\* 探鳥会は、支部報や支部ホームページをメインに広報し、高知新聞にも掲載した。7~9 月はサマータイムを導入し、探鳥会の開始時間を 1 時間早めて実施した。

\* 土佐湾にて洋上探鳥会を実施した。ホエールウォッチング用の船をチャーターし、定員は 8 名、参

加費は 1 万円。ナスカカツオドリが確認された。

\* 高知県自然観察指導員連絡会と共催で行ったタカの渡り観察会で、ワンコイン（500 円）の豚しゃぶランチ会を実施した。

\* ブッポウソウの巣箱メンテナンスについて、昨年巣箱の掃除をした際に、3 つの巣箱で 8 羽の巣立ちヒナが死んでいることが確認された。猛暑が原因と考えられたため、巣箱の遮熱対策を行うことにした。巣箱の屋根と側面に、アストロfoil というアルミ遮熱シートを貼り、遮熱のテストを行った。その結果、アストロfoil を貼った巣箱の方が、遮熱性能に優れていることが分かり、今年は遮熱対策をした巣箱を設置した。

#### ⑨徳島県支部（高井氏、宮本氏）

\* カンムリウミスズメの保護では、地元自治体に働きかけ、地元住民を対象とした講演会や観察会を実施した。

\* コアジサシの保護では、昨年度より徳島県庁の協力を得て、海浜コロニーの保護活動を開始した。

\* 徳島県支部が解説から運営に関わってきた出島野鳥園が今年で開園 30 年を迎えた。記念事業として、ボランティアが残した記録のデータ化やドローンで園内を撮影した動画の公開、園内の特大パノラマ写真の掲示などを行った。

\* 阿南市科学センターにて、当会の上田会長を招いて講演会を実施した。会員スタッフ含め 150 名程が集まり、大盛況であった。

\* 阿南市役所にて、出島野鳥園開園 30 周年を記念した写真展を実施した。



▲集合写真



▲オオタカ（出島野鳥園）

（普及室／井上 瑞穂）

## ◆事務局からのお知らせなど

### ■共生推進企画室より

#### ■2026年4月から旧版※の入会申込書が使えなくなります

2024年6月の支部ネット通信にて、また事務局の皆さまには書面にて直接ご案内をいたしました。改めてご連絡をさせていただきます。

会費の収納代行会社の社名が変更となり、入会申込書も記載変更を求められて、改訂をしています。これまでは社名変更前の旧版でも申し込みが受け付けされていましたが、2026年4月から受付不可となります。せっかくの入会のお申し込みが滞ってしまわないように、最新版をご使用ください。何卒よろしくお願いいたします。

※「2024.3版」以降のものが、社名が変更となった、受付可能な申込書です。それ以前の旧版は受付不可となります。最新版は「2025.10版」になります。



↑ 最新版の入会申し込み書（2025.10版）  
（ホームページ URL の下に「発行月」が入っています）

（共生推進企画室／篠木 秀紀）

### ■総務室より

#### ■会員数

1月5日時点の会員数は32,899人で、先月と比べ91人減少しました。

12月の入会・退会者数（表1）をみますと、入会者数は退会者数より100人少なくなっています。

12月1日付の入会者数は124人で、前年同月の入会者数161人と比べ37人減少しました。

また、12月末日付の退会者数は224人で、前年同月の退会者数236人と比べ12人減少しました。

なお、会員の増減は入会者数と退会者数のほかに、会費切れ退会となった後に会費が支払われ会員として復活した人数によって決まります。

表1. 12月の入会・退会者数

	入会者数	退会者数
個人特別会員	5 人	16 人
総合会員（おおぞら会員）	24 人	60 人
本部型会員（青い鳥会員）	18 人	45 人
支部型会員（赤い鳥会員）	48 人	60 人
家族会員	29 人	43 人
合計	124 人	224 人
年度累計	1,478 人	※

※会費切れ退会となった後に会費が支払われ会員として復活する方がいらっしゃるため、退会者数の年度累計は、実際の退会者数とずれた数字となります。

※上記集計は速報値になります。

#### ●都道府県および支部別会員数

野鳥誌贈呈者数を除いた数を掲載します。

表2. 都道府県別の会員数（1月5日時点）

都道府県	会員数	対前月差
北海道	1,585 人	-3 人
青森県	205 人	-2 人
岩手県	317 人	-5 人
宮城県	528 人	-5 人
秋田県	227 人	0 人
山形県	217 人	0 人
福島県	498 人	0 人
茨城県	813 人	-12 人
栃木県	812 人	0 人
群馬県	599 人	0 人
埼玉県	1,897 人	-2 人
千葉県	1,440 人	0 人
東京都	4,702 人	-14 人
神奈川県	2,998 人	-13 人
新潟県	326 人	-7 人
富山県	183 人	-1 人
石川県	261 人	-2 人
福井県	223 人	-2 人
山梨県	238 人	-1 人
長野県	817 人	-4 人
岐阜県	455 人	-6 人
静岡県	1,178 人	-2 人
愛知県	1,601 人	2 人
三重県	460 人	0 人
滋賀県	326 人	0 人
京都府	808 人	1 人
大阪府	1,851 人	1 人
兵庫県	1,205 人	1 人
奈良県	466 人	1 人
和歌山県	193 人	1 人
鳥取県	218 人	-2 人
島根県	187 人	0 人
岡山県	524 人	-1 人
広島県	543 人	0 人
山口県	281 人	-2 人

徳島県	319 人	0 人
香川県	210 人	2 人
愛媛県	325 人	0 人
高知県	98 人	-2 人
福岡県	1,110 人	-4 人
佐賀県	223 人	1 人
長崎県	205 人	0 人
熊本県	355 人	-2 人
大分県	216 人	-2 人
宮崎県	241 人	-1 人
鹿児島県	295 人	-3 人
沖縄県	64 人	-4 人
海外	16 人	0 人
不明	40 人	3 人
全国	32,899 人	-91 人

備考：不明は転居先が不明の会員を示します。

表3. 支部別の会員数（1月5日時点）

支部	会員数	対前月差
オホーツク支部	236 人	0 人
根室支部	72 人	-2 人
釧路支部	134 人	1 人
十勝支部	194 人	1 人
旭川支部	104 人	-1 人
滝川支部	34 人	-1 人
道北支部	55 人	0 人
札幌支部	298 人	0 人
小樽支部	47 人	0 人
苫小牧支部	163 人	-3 人
室蘭支部	114 人	0 人
道南檜山	74 人	1 人
青森県支部	108 人	0 人
弘前支部	111 人	-3 人
秋田県支部	216 人	0 人
山形県支部	206 人	1 人
宮古支部	71 人	-1 人
もりおか	139 人	-1 人
北上支部	81 人	-3 人
宮城県支部	492 人	-4 人
ふくしま	126 人	-1 人
郡山支部	143 人	0 人
白河支部	17 人	0 人
会津支部	52 人	0 人
奥会津連合	5 人	0 人
いわき支部	86 人	0 人
福島県相双支部	16 人	0 人
南相馬	19 人	1 人
茨城県	732 人	-8 人
栃木県支部	820 人	1 人
群馬	538 人	1 人
吾妻	46 人	0 人
埼玉	1,429 人	-1 人
千葉県	854 人	-2 人
東京	2,677 人	-3 人

奥多摩支部	746 人	-5 人
神奈川支部	1,881 人	-6 人
新潟県	252 人	-5 人
佐渡支部	43 人	0 人
富山	166 人	-1 人
石川	240 人	-3 人
福井県	213 人	-1 人
長野支部	375 人	-4 人
軽井沢支部	164 人	1 人
諏訪支部	234 人	0 人
木曾支部	20 人	2 人
伊那谷支部	70 人	0 人
甲府支部	174 人	0 人
富士山麓支部	41 人	0 人
東富士	55 人	0 人
沼津支部	130 人	-1 人
南富士支部	220 人	0 人
南伊豆	34 人	0 人
静岡支部	303 人	3 人
遠江	336 人	-1 人
愛知県支部	1,258 人	0 人
岐阜	428 人	-2 人
三重	407 人	0 人
奈良支部	394 人	-2 人
和歌山県支部	199 人	2 人
滋賀	331 人	-2 人
京都支部	783 人	3 人
大阪支部	1,699 人	4 人
ひょうご	916 人	-2 人
鳥取県支部	236 人	-2 人
島根県支部	190 人	0 人
岡山県支部	507 人	-1 人
広島県支部	470 人	0 人
山口県支部	257 人	-1 人
香川県支部	173 人	2 人
徳島県支部	338 人	0 人
高知支部	88 人	-2 人
愛媛	305 人	-1 人
北九州支部	228 人	-1 人
福岡支部	508 人	-4 人
筑豊支部	203 人	0 人
筑後支部	131 人	0 人
佐賀県支部	298 人	6 人
長崎県支部	180 人	-1 人
熊本県支部	346 人	-2 人
大分県支部	204 人	-2 人
宮崎県支部	236 人	-1 人
かごしま県支部	275 人	-2 人
やんばる支部	37 人	0 人
西表支部	56 人	0 人
	27,887 人	-59 人

備考：支部別の会員数の合計は、都道府県別の会員数の合計と異なります。

これは、本部型（青い鳥）会員や支部に所属されていない

い個人特別会員が支部別の会員数に含まれないためです。

(総務室／鈴木 風香)

## ■令和7年度第2回評議員会(臨時)議事録

- 1 開催日時 令和7年12月9日(火)  
午後4時00分～午後5時37分
- 2 開催場所 当財団会議室  
東京都品川区西五反田3-9-23  
丸和ビル3階
- 3 出席者 (敬称略、五十音順)  
評議員総数 8名  
出席評議員 8名  
糸嶺 篤人、上田 恵介、  
上原 治也、小野 泰洋、  
河野 博子、佐賀 耕太郎  
(以下、2名はWeb会議での出席)  
西村 公志、深町 加津枝  
  
出席理事  
遠藤 孝一、狩野 清貴  
葉山 政治、見田 元  
  
出席監事  
新實 豊  
  
事務局  
五十嵐 真(総務室長)  
松井 華奈(総務室員)  
深谷 静流(総務室員)  
林山 雅子(総務室員)
- 4 議長 評議員長 上田 恵介
- 5 議決事項  
第1号議案 評議員の選任の件
- 6 議事の経過の要領及びその結果

葉山政治常務理事が開会を宣言し、その後、上田恵介評議員長から挨拶があった。また、本評議員会は、Web会議システム(Zoom)を利用し行う旨が述べられ、出席者が一堂に会するのと同等に適時・的確な意見表明が互いにできる状態になっていることが確認された。引き続き、葉山常務理事より、本評議員会は定款第22条の規定に定める定足数を満たしており、適法に成立している旨、報告があった。

議事録署名人については、定款第24条の規定により、出席した評議員長及びその会議において選任された1人となっており、評議員長の他、佐賀耕太郎評議員が選任され、本人も承諾し、直ちに議案の審議に入った。

## 7 議決事項

### (1) 第1号議案 評議員の選任の件

上田評議員長より、評議員候補推薦委員会から評議員候補者名簿及び同委員会議事録が提出されている旨の説明がされた。また、遠藤理事長より、令和7年6月26日に辞任した鷹司尚武氏の補欠として推薦された方は、一般社団法人霞会館理事・本多紀雄氏であり、同氏について資料に基づき、略歴及び当会との関係等について説明がされた。

上田評議員長より、賛否を諮ったところ、出席評議員全員がこれを承認した。なお、定款第15条第2項により、任期は退任した評議員の任期の満了する時までとする旨の確認がされた。

評議員 本多 紀雄(補欠の選任・新任)

## 8 報告事項

### (1) 令和7(2025)年度補正予算の件

遠藤理事長より、令和7年度第3回理事会において令和7年度補正予算が議決された旨の説明がされ、五十嵐真総務室長より、経常収益は、受取寄付金及び物品販売事業収益の増額により、当初予算に比べ19,616千円増の975,319千円となり、また、経常費用は、退職給付引当金の増額及び長靴の売上増に伴う仕入額増で当初予算に比べ30,332千円増の1,081,378千円となり、この結果、当期一般正味財産増減額は、当初予算に比べ10,023千円悪化し、109,445千円減の期末残高は、862,506千円となり、指定正味財産増減額は、当初予算に比べ34,698千円好転し、45,827千円減の期末残高は1,609,675千円となり、両者を合わせた正味財産期末残高は、2,472,181千円となる旨の説明がされた。また、収益事業会計について、公益事業会計へ振替後の一般正味財産増減額は22,207千円で納税額は3,386千円の計算となり、最終的な収益事業の当期一般正味財産増減額は18,821千円となること、一方、資金収支ベースでは、当初予算に比べ6,263千円収支改善し、当期収支差額が15,636千円減となる旨資料に基づき説明された。

小野泰洋評議員より、物品販売事業収益は堅調な様子だが、長靴の販売以外に工夫していることや新しい売れ筋商品の有無を質問され、遠藤理事長より、基本的には長靴の売り上げが大部分を占めており、一時値上げによる収益の落ち込みがあったが、現在は回復し、適切な在庫管理の下で販売しているため、継続して長靴が主力商品であると回答された。上田評議員長より、報告事項1の資料「2025年度補正予算取りまとめ表(資金収支)」に表記されている各室の内訳の用途について質問があり、五十嵐総務室長より、財政上の健全を保つために各室の予算ピアリングなどの場面で使用し、収支均衡及び黒字収支を目指し努力する指標となっていると回答された。佐賀評議員より現場で働くレンジャーが日本野鳥の会の顔として懸命に活動する姿を目にする機会があり、勤務環境や待遇など、働きに応じた評価を望む、との意見が述べられ、遠藤理事長より、レンジャーには外勤手当が支給されているが、社会的な水準と比

較して十分ではないため、給与体系や労働環境の改善のために人事制度の構築に取り組んでいる、と回答された。

## (2) 令和7(2025)年度事業計画及び予算編成方針の件

狩野清貴副理事長より、事業計画は、令和8(2026)年度も、「ビジョン2030」に基づいた公益事業の展開を進めていく。また、公益事業部門とそれを支える他の各部門の機能の強化を図り、相互の連携を高め各事業の進展を図る。特に、共生推進企画室を中心に各室との連携を強化し、事業や活動の成果を基に会員や支援者、寄付等の増加に結び付ける「支援拡大サイクル」の構築をさらに進めていく旨、説明がされた。引続き、予算については、次年度も各室単位での積み上げ方式等の改善を進め、会全体の会費、寄付、委託事業等の収入及び収益事業での収入額と利用可能な特定預金等の範囲内での支出の範囲となるようにする。なお、特定預金の取り崩しは、事業の選択と集中を踏まえて計画的に行う旨の説明がされた。

河野博子評議員より、「ビジョン2030」達成の指標について質問があり、遠藤理事長より、「ビジョン2030」は定性的なものであり、達成度を数値で表せる仕組みにはなっていないが、人事制度に組み込んで定量的に評価できるようにする方針である、と説明された。上田評議員長より人事制度の全体像について質問があり、遠藤理事長より、構築中の人事制度について、評価制度・等級制度・給与制度・人材育成等を包括したものであり、個人が継続的かつ自立的に成長でき、それが組織の業績や、ビジョン2030のようなミッションに対する取り組みを向上させることを最終目標としている、と説明された。上原治也評議員より、すべてを数値化することはできないため、PDCAサイクルを繰り返し、昨年よりビジョン2030の達成に近づけたということが部署内はじめ会全体で共有できる仕組みがあることが重要だ、と述べられた。

## (3) 令和7(2025)年度第2回及び第3回理事会の結果の件

遠藤理事長より、令和7年度第2回及び第3回理事会の結果について、資料に基づき報告がされた。

議長は以上をもって全部の報告を終了した旨を述べ、午後5時37分閉会を宣言し解散した。

以上の議事を明確にするため、この議事録を作成し、議長及び議事録署名人がこれに記名押印する。

令和7年12月10日

公益財団法人 日本野鳥の会 定時評議員会  
議長 上田 恵介  
議事録署名人 糸嶺 篤人

以上

(総務室/深谷 静流)

## ◆支部ネット担当より

いつも支部ネット通信をご愛読いただきありがとうございます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

次月 2 月 17 日に紙版支部報の「とりまとめ便」を送付する予定です。財団事務局にて、全国各地の支部報をとりまとめて各支部あてにお送りしているもので、支部間の情報交換のために行っています。支部報以外のものも同送可能ですので、発送ご希望の場合は、2 月 13 日(金)必着で、80 部程度をお送りください(これより少なくとも大丈夫ですが、40 部程度以上お送りいただけますと幸いです。なお少なくともお送りいただいた場合は、財団事務局にて適宜調整させていただきます)

また、支部ネット通信では、支部やブロックから全国の支部・ブロックへ発信したい情報をご投稿いただいで掲載することができます。投稿にあたって特に字数の制限などは設けていません。できるだけ弾力的に対応させていただきます。原稿は毎月 5 日頃が締め切りで、25 日頃に発行となります。ご投稿は下記アドレスまでお送りください。次号もどうぞよろしくお願ひいたします。

日本野鳥の会

## 支部ネット通信

2026 年 1 月号・通巻 288 号

## ◆発行

公益財団法人日本野鳥の会 2026 年 1 月 27 日

## ◆担当

総務室 総務管理グループ  
五十嵐真/松井華奈/深谷静流/萩原洋平/原元奈津子  
〒141-0031  
東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル  
TEL : 03-5436-2620  
FAX : 03-5436-2635  
E-mail : [sibu-net@wbsj.org](mailto:sibu-net@wbsj.org)